

「学校行事を通して生徒の主体性を育みたい」

中川 太志 教諭



中川 太志(なかがわ たいし)教諭
本校6年目、生徒指導主事、生徒会執行部顧問、柔道部顧問、体育科主任、専門種目柔道(柔道六段)、熊本県柔道専門部副委員長、国体柔道熊本県代表選手団(少年男子)監督

令和5年(2023年)5月1日(月)に、4年ぶりに観客を招き体育祭を開催しました。大成功を収めた体育祭、この行事のチーフを務めた中川先生に、その思いを尋ねました。

今回の体育祭はどうでしたか？

中川 ここ数年では一番良かったと思います。生徒会執行部と「どんな体育祭にしたい？」とやり取りを始めて、その実現のために何をしなければならぬか、生徒たちと何度も話し合いをしながら準備をしてきました。そして、やっとここまで来たんです。体育祭当日も、先生たちは前には出ないよと言いながら、子供たちもそれを

意識をして、よく動いてくれたと思います。子どもたちも、観客を入れての一日開催の体育祭でしたから、みんな楽しみにしていたようです。3年生が1・2年生の時は規模縮小でしたからね。いろんな意味で楽しみな体育祭だったと思うんです。そしてそれが、子どもたちの当日のあの積極的な動きに出たと思うんです。

体育祭は体育の先生方で企画するのではなく、生徒が企画するんですね。

中川 そうです。ですから、体育祭の内容は生徒のアイデアで毎年変わるんですよ。以前は先生方が企画していたこともありましたが、そのあと生徒会の生徒たちに聞いたんです。「やりたいことがあるなら、なんで言わんと？」そうしたら「どうせダメと言われると思うた。」「言っていないんですよ。」「そうしたやりとりをした翌年から、生徒会がアンケートをとってやりたい競技を決めたりと主体的に取り組んでくれるようになったんですね。ですから現在私たち教師は生徒の企画を成功させるためにサポートするというスタンスです。生徒が主体的に動いて



体育祭の進行を見守る生徒会執行部の生徒たち

くれるし、生徒の成長が見られてよかったと感じています。

中川先生はどんな思いを持ちながら指導されてきましたか？

中川 学校行事って、普段は見ることができない生徒の様子、行動が見られます。それが楽しみであって、生徒の個性というか新しい側面を見ることができず。そこでそれに着目しながら子どもたちにヒントを与えることでまた大きく成長してくれる。あまり目立とうとしなかった子が前に出て話をしようとする。それが大きな経験になっていると思うんですね。そして1年生から2年生に、そしてまた3年生になるにつれて着実に

成長してくれています。
その成長ってどんなところで見られましたか？

中川 最初は教師側からの提案に沿っていた子どもたちが、だんだん、自分たちから提案するようになる。これは体育祭だけではなく、文化祭も同じで、学校行事に対する考え方が変わってきていると感じます。

これから生徒たちに望むことを教えてください。

中川 子どもたちは、この体育祭で、これだけできるという姿を見せてくれたというのは我々も感じているところなので、この「できる姿」というのを、他の場面でも見せてほしいんです。自分の将来に関することや、部活動であったり、勉強であったり、必ず活かせるはずなので、プラス思考で、様々な面で活かして行ってほしいと思っています。

生徒会執行部を希望する生徒は年々増えており、現在25名で活動しています。話をうかがいながら、これからの鹿本高校生徒会活動がとて楽しみになりました。